

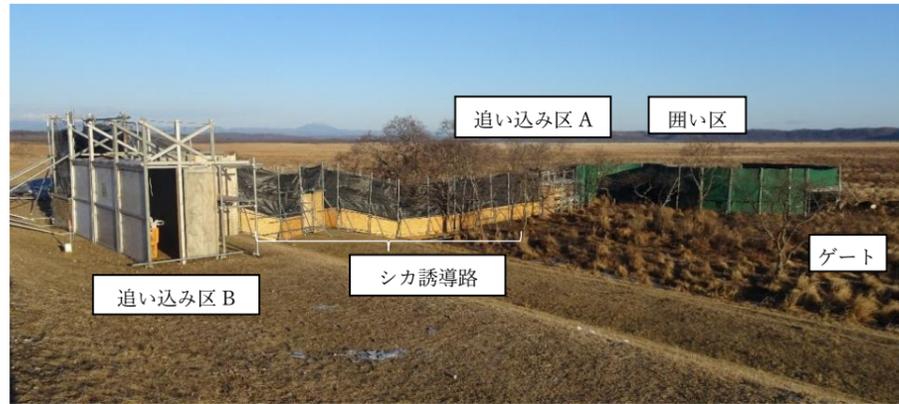
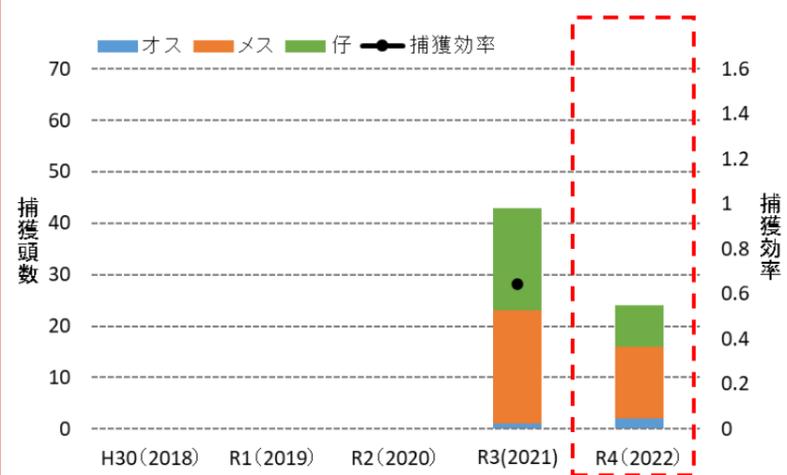
令和4年度エゾシカ捕獲対策の実施状況

1. A地区における捕獲結果

(第1期)				(第2期)
H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度※
62頭	64頭	89頭	86頭	41頭

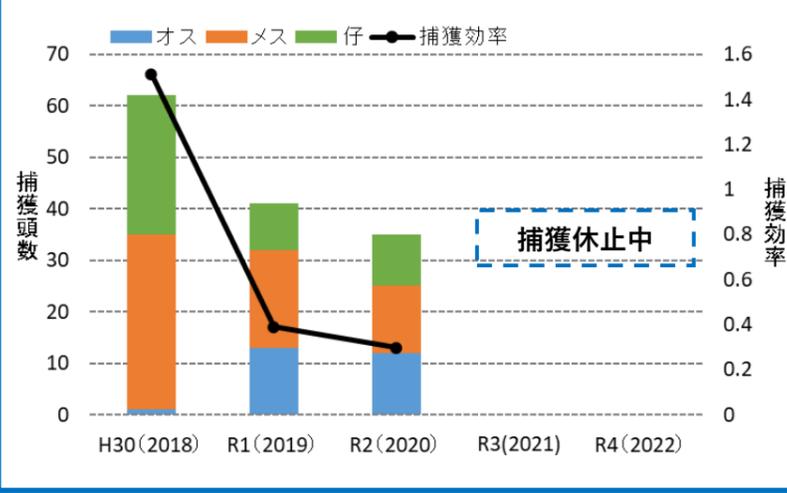
※2月1日時点
 捕獲効率 = 捕獲頭数 / 捕獲日数

赤沼 (大型囲いワナ+シカ誘導路)



誘導路: 全長36m、幅90cm、壁面の高さ3m

サケマス分岐 (大型囲いワナ)

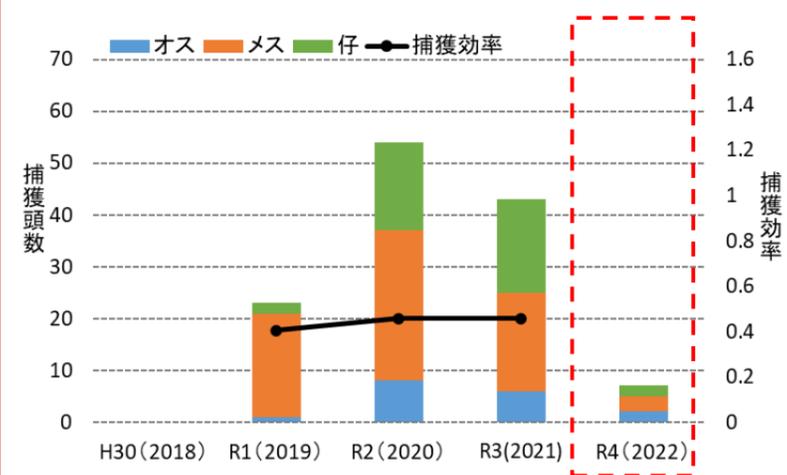


サケマス分岐北 300m (小型囲いワナ)



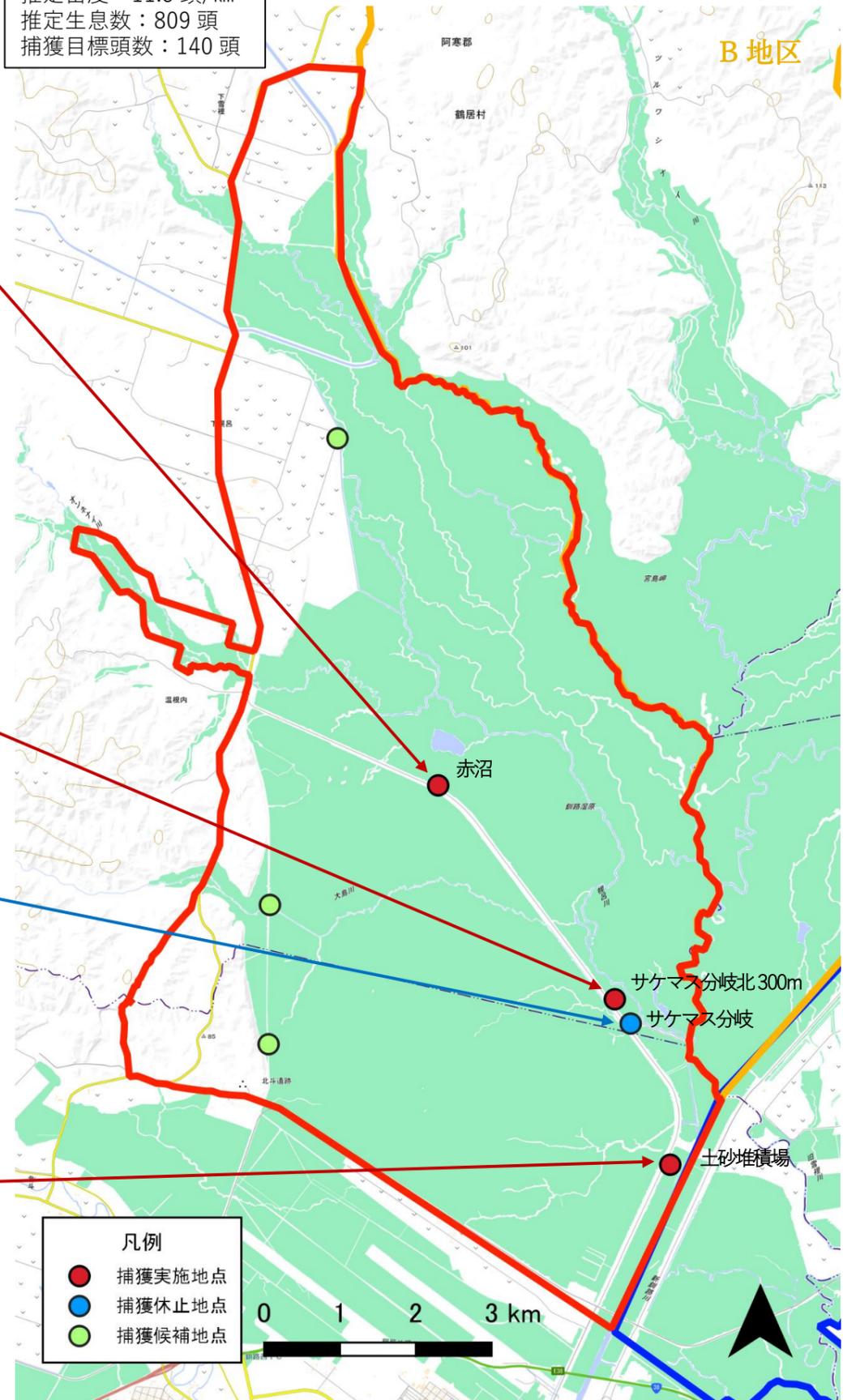
4m×4m×高さ3mのメッシュパネル式 (製品名: サークルD)

土砂堆積場 (大型囲いワナ+シカ誘導路)



A地区

面積: 70.1 km²
 推定密度: 11.5 頭/km²
 推定生息数: 809 頭
 捕獲目標頭数: 140 頭



実施計画（第2期）では、第1期計画期間の捕獲実績（75頭/年平均）も踏まえて、A地区におけるエゾシカの増加を抑制するための捕獲目標頭数の目安（自然増加率による翌年の増加数）を設定することとなっている。

今年度（2月1日時点）の捕獲結果を踏まえ、来年度の捕獲目標頭数の目安を試算した。

表1. A地区におけるエゾシカ捕獲目標頭数（目安）の考え方

①	A地区における2021年2月の推定越冬個体数	809頭
②	①のうち、湿原を通年利用すると考えられる個体数【①×0.87】 （GPS首輪調査結果から、およそ全体の87%と試算）	703頭
③	②の自然増加率（1.2）による翌年の増加数【②×0.2】 ＝湿原内における捕獲目標頭数の目安／年	140頭
令和5年度の捕獲目標頭数の試算		
④	令和4年度の捕獲頭数 ※2月1日時点	41頭
⑤	A地区における推定越冬個体数のうち、令和5年度に湿原を通年利用すると考えられる個体数【②+③-④】	(802頭)
⑥	⑤の自然増加率（1.2）による翌年の増加数【⑤×0.2】 ＝湿原内における捕獲目標頭数の目安／年	(160頭)

※ 本地区内外でのエゾシカの移出入があると考えられるため、捕獲による効果を評価する際には慎重な検討が必要である。

2. 各捕獲場所の現状と課題

(1) 土砂堆積場について

<現状>

- ・捕獲 4 年目で、捕獲後、次に捕獲対象となるエゾシカが再度ワナに入り始めるまでに要する時間が昨年度よりも長くなっている。
- ・ワナ設置場所を中心とした半径 1km 圏内に約 30 頭-40 頭が誘引できているものの、ワナ内に入るのは 6 頭程度。

<課題・対策>

- ・捕獲数が低下傾向。
 - 来年度は捕獲休止を要検討。

(2) 赤沼について

<現状>

- ・シカ誘導路による搬出試験の結果、オスジカも含めて作業効率に大差はなく、作業員の安全上も問題は発生しなかった。
- ・現状、昨年度と同等の捕獲数が見込まれるものの、誘引できているエゾシカの警戒心が徐々に高くなってきている。

<課題・対策>

- ・次年度以降、捕獲効率の低下が懸念される。
 - 誘引範囲や期間の拡大などにより、周辺からの誘引を強化。
 - 捕獲したエゾシカの搬出方法の変更を検討。
 - 新たな捕獲候補地の検討。
- ・保全対象である高層湿原域における対策として、捕獲効率が落ちてでも捕獲を継続するか。

<参考> 搬出試験の結果詳細

昨年度、メスジカ（仔ジカ含む）は「シカ誘導路」による搬出が安全かつ効率的に誘導可能なことを実証したが、オスジカの誘導実績は 1 頭のみであり、逆走・攻撃してきた場合の検証が不十分であった。そのため、今年度は誘導路内に作業員が入って誘導する方法（誘導路内作業）と作業員が誘導路に入らず外から誘導する方法（誘導路外作業）を試している。

現在、誘導路内作業 2 回、誘導路外作業 7 回実施し、このうち 3 回はオスジカで試験した。誘導路外作業で、追い込み区 A から誘導路に出るまでに時間がかかったり、誘導路内の隙間などを気にして立ち止まったりするエゾシカがいたものの、どちらの方法でも順調に誘導できた。



写真 1. 大型囲いワナおよび誘導路

(3) サケマス分岐北 300m

<現状>

- ・湿原内に小型囲いワナを設置し、ポケットネットを利用した電気止め刺しやソリ等による搬出も実施できている。
- ・ワナ周辺には 20 頭程度のエゾシカが誘引されている。

<課題・対策>

- ・ワナの構造上、平坦な地面（約 5m 四方）が必要。
 - 本州で斜面に設置した事例を参考として、ワナ構造の改良や設置方法を検討し、設置場所の候補地を増やす。
- ・捕獲頭数が増えた場合、保定・捕殺・搬出に時間がかかる。
 - 6頭以上捕獲しても仕分けを行えるよう、追い込み区の増設やワナ構造の改良を検討。
 - 搬出労力を軽減するために、ウィンチの導入等を検討。

<参考>

大型囲いワナ以外の捕獲手法として、小型囲いワナによる試験捕獲を実施している。

小型囲いワナの設置箇所は、右岸堤防道路沿いで地形的に設置可能かつ土砂堆積場・赤沼の囲いワナの誘引範囲と重ならないような場所を選定した。また、ロードセンサスによるエゾシカの確認頭数や搬出作業の平易さ等も考慮している。

ワナにはエゾシカへのストレス軽減、ワナ内で暴れて怪我や流血しないように目隠しを付けた。



写真2 捕獲後に目隠しが下りた状態



写真3 捕獲後の様子



写真4 ポケットネットでの保定



写真5 止め刺し後の搬出

3. 次年度以降の捕獲対策について

今年度、餌による誘引は全ての捕獲場所で30～40頭ほど集まる様子が確認されているが、平成30年度（右岸堤防における捕獲初年度）のように1か所で70頭を超えるようなことはない。

現状では、土砂堆積場の捕獲数は昨年度より減少、赤沼は昨年度と同程度、小型囲いワナは15頭程度の捕獲が見込まれ、総捕獲数としては昨年度を下回る可能性が高い。

次年度以降、下記に示すとおり、各捕獲場所の状況や各捕獲手法の条件等を踏まえ、A地区で多くのエゾシカを捕獲するため、囲いワナやその他の手法も含めて捕獲方法や捕獲場所、設置箇所数、搬出・処分方法について検討し、実施する必要がある。

<大型囲いワナの各捕獲場所について>

土砂堆積場：捕獲効率が低下傾向にあり、次年度は捕獲休止を検討。

サケマス分岐：周辺のエゾシカ生息数は回復傾向にあり、次年度に捕獲再開を検討。

赤沼：次年度は捕獲3年目で捕獲効率の低下が見込まれる。ただし、保全価値の高い高層湿原域であり、1頭当たりの捕獲による湿原生態系への保全効果は高いと考えられる。

<各捕獲手法の条件等>

表2 各捕獲手法の比較

ワナ種別／項目	大型囲いワナ	大型囲いワナ+誘導路	小型囲いワナ
設置コスト (目安)	6名×3日	6名×6日	3名×2日
運用人数	3-4名	3-5名	2-3名
1回あたりの最大捕獲頭数	15頭程度	15頭程度	5頭程度
捕獲個体の処理方法	生体搬出	生体搬出	止め刺して処分
設置条件	ユニックを横付けできる取り付け道路が必要。 ※右岸堤防沿いの設置候補地は、土砂堆積場・サケマス分岐のみ	取り付け道路は不要だが、堤防法面の形状により誘導路の設置場所が制限される。	5m四方の平坦な地形が必要。 ワナを人力で運べる距離であれば設置可能。